第19回千葉県資源評価検討会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年10月27日（金） 午後1時30分～午後2時30分
- 2 開催場所 （一財）千葉県自治体職員福祉センター4階 第2会議室
- 3 出席者 <構成員>
東北大学大学院農学研究科 教授 片山 知史
県農林水産部水産局漁業資源課長 宮嶋 義行
県水産総合研究センター次長（企画調整室長事務取扱） 池上 直也
<その他>
県関係職員16名

4 検討事項

- (1) 令和5年度千葉県沿岸水産資源の資源評価（案）について
- (2) 千葉県資源管理方針（案）について
- (3) その他

5 検討事項の概要及び検討の結果

- (1) 令和5年度千葉県沿岸水産資源の資源評価（案）について

事務局から令和5年度の資源評価対象種について概要説明があった後、水産総合研究センター担当者から資源評価票、資源評価票に準ずる資料、漁獲量推移等の資料について説明があった。構成員からの主な意見等は以下のとおり。

- ・ 構成員からマダイについては情報が蓄積されているので、代表的な漁業及び代表的な海域でC P U Eを指標値とした資源評価ができないか意見があった。
- ・ 構成員からイセエビのC P U Eに関連してイセエビは市場には数日分まとめて出されているのか、毎日出されているのか質問があり、担当者から毎日出されている旨回答があった。
- ・ 構成員からダンベイキサゴは現在、資源状況が良いので生態情報等を集める機会である旨意見があった。
- ・ 構成員からホンビノスガイの資源状況、漁獲状況等について質問があり担当者から現状について回答があった。
- ・ 構成員から日常的に現場の漁業者等の意見を聴き、資源評価等につなげるよう意見があった。

(2) 千葉県資源管理方針（案）について

事務局から千葉県資源管理方針の変更案について説明があった。構成員からの意見等は以下のとおり。

- ・ 構成員から、資源管理の方向性の記載について異論無い旨意見があった。
- ・ 構成員から、魚種ごとの資源管理方針についてはどのような頻度で見直すか質問があり、事務局から概ね5年である旨回答があった。

(3) その他

事務局から、今後の資源管理協定の取組の効果の検証を見据え、評価票に準ずる資料や漁獲量推移等の資料についても公表を検討する旨の提案があり、来年度以降、検討を進めることとなった。